

県南地域づくりキャンパス事業「美波の魅力発見プロジェクト」報告

徳島大学 教養教育院 齊藤 隆仁

経緯：

本事業は2018年度から実施しており、コロナ禍にオンラインを通じた学習方法に大きく変更することとなったが、コロナ収束後は、オンラインを通じた学習方法を取り入れながら、対面学習やフィールドワーク実習を充実させ現在に至っている。

- 内容**
- (1) **テーマ：**美波町の魅力を学び発信するー新たな地域づくりへー
 - (2) **目標：**美波町を、深く多面的に学び、自らの故郷との比較を通して、将来の地域（各自）の担い手として、自らの存在や役割を考える。

概要：事業の流れ

- ①徳島大学と美波町との打ち合わせ＝事業への取組（予算等も含め）の確認
- ②徳島大学内の日本人学生の授業「異文化交流から学ぶグローバル化」「異文化交流体験から何を学ぶのか」（齊藤隆仁担当）と留学生の授業「日本事情Ⅰ」、「日本事情Ⅱ」（坂田浩担当）の打ち合わせ。受講者は前期と後期でほぼ入れ替わっている。
- ③授業で話題提供をしていただく美波町住民との打ち合わせ
- ④授業における美波町についての学習
- ⑤4回のフィールドワーク

考察：当初の計画した事業効果を検証する。

- ①大学生がオンラインで美波町を学ぶ際に三つのリソースを活用し、確認さらなる提案を試みる。観光や移住の情報が適切に伝わるかどうかの提案もする。

社会的リソース

日和佐八幡神社秋祭り、祭りサミット、薬王寺、日和佐八幡神社、遍路路、えびす洞、うみがめ博物館カレッタ、谷屋、あわえ、道の駅等のいくつかを実際に訪れる。座学のみではイメージが捉えづらいうのであるが、現地を訪れることで、最終レポートの題材として取り入れることが可能となった。

物的リソース

美波町のニュース映像、各種パンフレットや資料、映画「波乗りオフィスへようこそ」等を授業の中で学習素材として扱う。フィールドワークは時間的な制約から、実際に現地に行き触れることができる場所は限られている。それを補完し、全体像を把握するためにはこうした物的リソースの活用が有効であった。

人的リソース

授業で話題提供をしていただいたり、フィールドワークの中で対話をしていただく美波町住民（美波町の活性化を担う人財）にご協力いただいた。

今年度は、7月14日のひわさうみがめトリアスロン、10月13日の日和佐八幡神社

秋祭、12月15日の祭りサミットに合わせてフィールドワークが実施できた。加えて11月10日に木岐から薬王寺までのミニ遍路体験が行えた。そうした体験の中で、美波町住民との対話を通じて、理解がより深まったことが最終レポートから確認された。

②オンラインで美波町の魅力を学び、個人の学びを通して参加者が協力し提言を創出し、さらに多くの人や地域に発信することを試みる。

徳島大学の学生（前後期合わせて日本人58名、留学生18名）が、講義（オンライン及び対面）や資料（パンフレット、地図などの冊子、ホームページ、映画）から学んだこと、さらにフィールドワークによる発見を加えて、グループワークによる対話の学びを進めた。授業最終日に最終課題のプレゼン発表を実施した。

最終課題のテーマ

講義およびフィールドワークを通じて理解した現在の美波町の強み（魅力、資源）と弱み（問題点、取り組むべき課題）の分析を行い、美波町が今後、幅広く国際交流をする地方の町として存在しつづけるために、自分が学生時代にできることの提案をしてください。

最終課題の学生の提案（抜粋）

- 大学生の阿波踊りの連による秋祭りへの参加
- うみがめ博物館等でのボランティア参加
- 美波町の紹介文を作り、学食のテーブルに置く。あるいはポスター制作。
- 美波町の民話を、学習中の初修外国語や留学生の母語に翻訳して発信する。
- 美波町の民話を絵本にする。
- 移住希望者や外国人対象の（オンライン参加も可とする）お遍路体験の企画
- 大学生による地域住民と外国人（留学生）との交流イベント企画
- 日和佐八幡神社秋祭りの日に外国人を対象としたバスツアー企画



日和佐八幡神社秋祭（2024. 10. 13）



あわえ見学（2024. 12. 15）

実施にあたって、県南地域づくりキャンパス事業として助成を受けられたことを深く感謝いたします。